

③ 書く

書いたものと組みたてて表をつきあわせたりしながら、伝えたい気持ちや事柄をふくらませて意欲的に表現活動ができた。

④ 書き直し

漠然とみなおしてゆくのではなく、みなおす観点を決めて学習させていったところ、誤字や脱字、仮名遣いの表記上のあやまりの多いことに気づき、推敲記号を書き入れながら訂正することができた。

特に、わかりにくい表現のところは、「しやく」の記号を使い訂正し、相手に伝えたい気持ちや事柄が、正しく伝わるような手紙に推敲することができた。

四年の場合

(一) 児童の変容(資料4)

(1) 感想あつめ(2) 構想(3) 書く(4) 推敲の指導過程にそって、児童の変容を見ると、T・H(男)の児童においてはあまり見られなかったが、その他の五人の児童においては、中、下の評価段階より上への伸びが見られた。

また、T・Hの児童についても指導前の感想文と比べると、読む人にわかりやすい作品となっている。

特にY・H(男)の記述、推敲、T・N(男)の記述における伸びが著しい。

(二) 各段階における考察  
一人一人、指導段階にそって考察をくわえていったところ、T・H(男)をのぞいて次にあげるようなことが言え

資料2 複式学習指導案

3 年 7/12				4 年 5/12				
組み立て表をもとに、自分の気持ちや伝えたいことが相手にわかるような手紙を書き、自己評価ができる。				めあて	感想の書きこまれたしおりを整理し、感想文の構想をたてることができる。			
反応・考察	留意点	発問	学習内容・活動	学習内容・活動	発問	留意点	反応・考察	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○プリントにするしをつけてくる。</li> <li>○自学しやすすい方法をとったのにゆとりをもつことができ。この方法は、国語にかぎらずいろいろな機会を通じて実践して、とまどうことはなかった。</li> <li>○学習の順序に従って、意欲的に学習にのりこんでいた。</li> <li>○自己評価をする観点については、児童と前もってかわしくはなしあたって、組み立て表とみなおし表をつたので、とまどうことがなかった。たとえば、シールをはるとか、伝えたいことやはなしかけるところにかくしをつけるとかである。</li> <li>○時間がたりず、一字一字まわがわなでかけたかというところについて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○読む相手に伝えたいことや、語りかけるように表現するところに印をつけてきたか、プリントでたしかめておく。</li> <li>○学習の順序をふきこんで用意し、自学できるようにする。</li> <li>○推敲するのに便利な用紙を用意しておく。</li> <li>○自己評価しやすすいような見なし表をつくるようにする。</li> <li>○おとさないで書いてあるものには、シールをはることも、◎、○、△のつけ方の約束ごとをおくようにする。</li> <li>○二年生にはなしかけられるように読むように</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○二年生はみなさんに「手ぶくろを買いたい」を読んで感じたこと、考えたことを組み立て表を使って正しく伝える手紙をかいてみよう。</li> <li>○組み立て表をもとにして、気持ちのこもった手紙をかいてみよう。</li> <li>○組み立て表をもとにかくことができたら、伝えたいことが正しく伝わるようにかけていますか。</li> <li>○話しかけるようにかくことができましたか。</li> <li>○一字一字まわがわなでかくことができたら、見直し表に自分のかいた手紙がみんどの点をつけましたか。</li> <li>○先生を相手の二年生だと思つて気持ちを</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時のめあてを確認する。</li> <li>2. 二年生にあてて、本を読んで感じたことや考えたことを手紙にかき、自己評価をする。</li> <li>○手紙文をかく。</li> <li>○書きあげた手紙文を読みかえし、見なし表をもとに自己評価をする。</li> <li>3. 手紙文を読んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5</li> <li>8</li> <li>10</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 本時のめあてを確認する。</li> <li>2. 読書感想文の構想の追求をする。</li> <li>○まねしたい感想文の書き方</li> <li>○構想表の発表</li> <li>3. 構想表の作り方の反省をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○この感想文は、学級の友だちの感想文ですが、どのような反省があげられましたか。</li> <li>○本時の学習は、しおりを整理し、一番心に強く残った感想の中心がわかるような構想をつくる学習をします。</li> <li>○教科書にのっている友だちの感想文の書き方でまねしたいなと思つたところはどこですか。</li> <li>○できあがった構想表を発表してみよう。</li> <li>○友だちの構想表で工夫されているところはどこですか。</li> <li>○構想表をつくらせてみて、どんなところがうまくいったか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第一時国での自分たちの感想文に対する反省を想起させることにより、学習の意欲づけをはかる。</li> <li>○前時の学習で赤くしたところを思いださせる。</li> <li>○自分たちが今まで書いてきた感想文の実態とつきあわせて考えさせるようにする。</li> <li>○数名の児童に発表させる。</li> <li>○友だちの構想について相互に話しあわせるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第一時の感想文のかき方の反省でもとりあつたので、学習の方向づけになった。</li> <li>○まねしたいということばに、とまどうのか、あるいは書きだした方法の学習があいだにはいかなかったためか、なかなか反応が得られなかった。</li> <li>○全体から強く感じたことは何だったのかという発問で反応(T・M)</li> </ul>
<p>はじめ</p> <p>ざんこくだ</p> <p>おわり</p> <p>カランボーの王として生きてほしかった。(T・N)</p> <p>はじめ</p> <p>なかまを大切にす。</p> <p>おわり</p> <p>殺さないでほしかった。(T・U)</p>								